

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホスピタリティ・コミュニケーション II		（ THB202 ）
講義名（コード）	ホスピタリティ・コミュニケーション IIC		（ THB202C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 概要理解第2回 20日で合格N1
2	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 概要理解第4回 20日で合格N1
3	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。特に助詞の定着	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第1回 20日で合格N1
4	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第2回 20日で合格N1
5	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第3回 20日で合格N1
6	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。特に助詞の定着	ドリル&ドリルN1 聴解 即時応答第4回 20日で合格N1
7	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第1回 20日で合格N1
8	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第2回 20日で合格N1
9		JLPT模試
10		JLPT模試 12/3JLPT
11	場面に適した語彙や表現を正しく習得する。特に助詞の定着	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第3回 20日で合格N1
12	N1レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN1 聴解 統合理解第4回 20日で合格N1
13	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN1 聴解 総まとめ 20日で合格N1
14		後期期末試験
15		後期期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリル聴解 N1 TRY!N1文法
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホスピタリティ・コミュニケーション II		（ THB202 ）
講義名（コード）	ホスピタリティ・コミュニケーション IID		（ THB202D ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第5回 TRY! N2文法
2	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第1回 TRY! N2文法
3	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第2回 TRY! N2文法
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第3回 TRY! N2文法
5	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第4回 TRY! N2文法
6	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第5回 TRY! N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第1回 TRY! N2文法
8	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第2回 TRY! N2文法
9		JLPT模試
10		JLPT模試 12/3JLPT
11	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第3回 TRY! N2文法
12	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第4回 TRY! N2文法
13	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第5回 TRY! N2文法
14		後期期末試験
15		後期期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリル聴解 N2 TRY!N2文法
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホスピタリティ・コミュニケーションⅡ		（ THB202 ）
講義名（コード）	ホスピタリティ・コミュニケーションⅡE		（ THB202E ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 ポイント理解第5回 総まとめ 文法N2
2	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第1回 総まとめ 文法N2
3	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第2回 総まとめ 文法N2
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第3回 総まとめ 文法N2
5	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第4回 総まとめ 文法N2
6	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 概要理解第5回 総まとめ 文法N2
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第1回 総まとめ 文法N2
8	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第2回 総まとめ 文法N2
9		JLPT模試
10		JLPT模試 12/3JLPT
11	場面に適した語彙や表現を正しく習得し、正しい答えが言える。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第3回 総まとめ 文法N2
12	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第4回 総まとめ 文法N2
13	JLPTに必要な語彙・慣用表現などに慣れる。	ドリル&ドリルN2聴解 即時応答第5回 総まとめ 文法N2
14		後期期末試験
15		後期期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリル聴解 N2 総まとめ 文法N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コラボレーション演習 II		（ THB204 ）
講義名（コード）	コラボレーション演習 IIC		（ THB204C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	時事問題などを中心に現代社会における諸問題を多国籍の学生とのディベートや発表を通して深く多角的な視点で理解し、国際社会の一員としての教養を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自身の考えをまとめ、明確に表現するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	時事問題① 日本の現代文化について学ぶ①	現代文化について学び、知識を得る。 『20日で合格N1』 第11回 文法
2	時事問題② 日本の現代文化について学ぶ②	【グループワーク】現代文化について得た知識をもとに意見を交換し、発表する。
3	時事問題③ テーマに基づいて意見を交換し、発表することができる。	【グループワーク】新しい文化の創出についてグループごとに発表する。 『20日で合格N1』 第13回 文法
4	時事問題② 時事について意見を交換することができる。	ニュースについて意見交換 『20日で合格N1』 第14回 文法
5	時事問題③ 時事について意見を交換することができる。	ニュースについて意見交換 『20日で合格N1』 第15回 文法
6	時事問題④ 時事について意見を交換することができる。	【グループワーク】 ニュースについて意見交換 『20日で合格N1』 第16回 文法
7	時事問題⑤ 時事について意見を交換することができる。	【グループワーク】 ニュースについて意見交換 『20日で合格N1』 第17回 文法
8	時事問題⑥ テーマに基づいて意見を交換し、発表することができる。	【グループワーク】グループごとに考えた意見をまとめ、発表する。
9	異文化理解① 文化の違いを理解できる。	異文化について意見交換 総合演習
10	異文化理解① 文化の違いを理解できる。	異文化について意見交換 『20日で合格N1』 第18回 文法
11	異文化理解② 共生するための努力ができる。	相互理解について意見交換 『20日で合格N1』 第19回 文法
12	異文化理解③ 日本に関心をもつことができる(1)	日本の伝統について意見交換 『20日で合格N1』 第20回 文法
13	1年の学習を振り返ることができる	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『20日で合格N1』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コラボレーション演習 II		（ THB204 ）
講義名（コード）	コラボレーション演習 IID		（ THB204D ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	伊東 かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東 かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体の内容と概要	日本語の読解文を読み、日本語で議論し、自分の考えをまとめ文章で表現する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解の文を自分の発表に入れる	読解厳選テーマ初中級 テーマ10 内容把握 N2読解練習
2	自分の言葉でなく、文章の言葉で発表内容をつくる	読解厳選テーマ初中級 テーマ14 内容把握 N2読解練習
3	何がわからないか、なぜか、話しあって理解する	N2読解模擬試験、フィードバック、グループワーク ●次回のテスト内容を先提出することを課題とする
4	長い文を短く要約する	N2読解自己分析、グループワーク
5	小テスト	一人ひとり発表小テスト
6	言いたいことを正しく表現する	読解厳選テーマ初中級 テーマ18 内容把握 N2読解練習
7	面接で話す内容を作る	面接の基礎、面接ワーク（経験とフィードバック） 面接ペア演習、個人発表と批評
8	話しかた、アピールの仕方を競う	動詞の活用から 理解N2読解練習
9	動詞の活用か場面を理解	N2特訓、読解練習 ●ゲーム式に答えを反射的に答える
10	答えの推測	読解厳選テーマ初中級 テーマ20
11	読解のポイント、高成績の技術を理解	N2特訓、読解練習 ●ゲーム式に答えを反射的に答える
12	読解のポイント、高成績の技術を理解	読解厳選テーマ初中級 テーマ20 内容把握 N2読解練習
13	試験準備	作者の言いたい事、言い換えの反射練習
14	後期試験	試験
15	後期定期試験解説	間違いのフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	読解厳選テーマ初中級
参考文献・資料等	N2 模擬テスト資料
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	コラボレーション演習 II		（ THB204 ）
講義名（コード）	コラボレーション演習 IIE		（ THB204E ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	前期は主に面接に必要な日本語力について学んでいく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文化を越えて共通するテーマについて異文化の人々と話し合う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ7 内容把握
2	様々な意見を検討した上で自分の考えをまとめあげる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ7 発表
3	最近のニュースについて分析する力を養う。	読解厳選テーマ初中級 テーマ8 内容把握
4	最近のニュースについて自分の意見を交えて説明する。	読解厳選テーマ初中級 テーマ8 発表
5	当たり前のことに対して疑問をもつ視点を身につける。	読解厳選テーマ初中級 テーマ9 内容把握
6	小さなことについて面白く魅力的に説明する。	読解厳選テーマ初中級 テーマ9 発表
7	他者の生き方から様々な学びを得る。	読解厳選テーマ初中級 テーマ10 内容把握
8	他者の人生について説明することができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ10 発表
9	事象を的確に捉え、問題点を素早く分析し自分の意見をまとめる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ11 内容把握
10	説得力のある話ができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ11 発表
11	微妙なニュアンスの違いを理解しながら内容を把握することができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ12 内容把握
12	日常の些細な差異についてわかりやすく説明することができる。	読解厳選テーマ初中級 テーマ12 発表
13		後期の復習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	読解厳選テーマ初中級
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	観光ビジネス戦略 II		（ THB212 ）
講義名（コード）	観光ビジネス戦略 II		（ THB212 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス産業の根幹をなすホスピタリティ論を基礎として学び、実例を研究することで高質なホスピタリティを体得する。ホスピタリティ検定の受験希望者のサポートを行う
全体的内容と概要	まずはホスピタリティ理論を学ぶ。加えて、ホテル業界、航空業界、旅行業界などの優れたホスピタリティの実例を理解する。自分のホスピタリティのレベルを高める。
授業時間外の学修	質の高いホスピタリティで知られる個所を訪ねてみよう。
履修上の注意事項等	講義で学んだことに加え、ホスピタリティ検定の過去問を学んでホスピタリティ検定に挑戦して欲しい。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	オリエンテーション 「ホスピタリティー検定について」
2	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント① ホスピタリティーとサービス
3	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント② 経営管理ーサービス・マーケティング
4	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント③ サービス・リカバリー、エンパワーメント、リーダーシップ
5	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント④ 顧客満足
6	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント⑤ 従業員満足
7	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント⑥ 従業員とコミュニケーション
8	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント⑦ ①旅行ビジネス JTB ②航空ビジネス 日本航空
9	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメント⑧ ①宿泊ビジネス 星野リゾート②テーマパークビジネス USJ
10	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	①島っこガイド②日本で4番目に小さい 竹島水族館
11	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティーの達人 ハワイ
12	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ラグジュリアス ホスピタリティ
13	ホスピタリティーの基本を学び、それを多くの場面で活かし、周りの人を幸せにする	ホスピタリティー・マネージメントの総括
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	私が作成した講義資料を使用
参考文献・資料等	「ホスピタリティー検定」(経済法令研究所) 「ホスピタリティーマネジメント」山口一美 著 (創成社)
備考	ホスピタリティー検定に果敢に挑戦して欲しい

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	リスクとコンプライアンスⅡA		（ THB214 ）
講義名（コード）	リリスクとコンプライアンスⅡA		（ THB214 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	福井 琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井 琢也	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	社会人として知っておくべきコンプライアンス、情報モラルや情報セキュリティを身に付けることを目的とし、本授業終了後に、自らリスク管理できることを到達目標とする。
全体的内容と概要	基本的な企業のコンプライアンスを事例クイズ形式で実施し、また情報セキュリティ(春学期)、情報モラル(秋学期)は基本的知識を学び、小テストで確認する。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識を復習すること。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待1回目） リスク：情報モラル（情報社会）
2	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待2回目） リスク：情報モラル（著作権1回目）
3	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待3回目） リスク：情報モラル（著作権2回目）
4	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待4回目） リスク：情報モラル（個人情報1回目）
5	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売1回目） リスク：情報モラル（個人情報2回目）
6	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売2回目） リスク：情報モラル（ネチケット1回目）
7	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売3回目） リスク：情報モラル（ネチケット2回目）
8	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売4回目） リスク：情報モラル（ネットコミュニケーション）
9	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート1回目） リスク：情報モラル（事例研究）
10	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート2回目） リスク：情報モラル（事例研究）
11	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート3回目） リスク：情報モラル（復習）
12	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート3回目） リスク：情報モラル（復習）
13	小テスト	コンプライアンス：予備 リスク：予備
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	コンプライアンスの基本 角川出版 / 情報倫理ハンドブック noa出版
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	リスクとコンプライアンス II B		（ THB214 ）
講義名（コード）	リスクとコンプライアンス II B		（ THB214 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	福井 琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井 琢也	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	社会人として知っておくべきコンプライアンス、情報モラルや情報セキュリティを身に付けることを目的とし、本授業終了後に、自らリスク管理できることを到達目標とする。
全体的内容と概要	基本的な企業のコンプライアンスを事例クイズ形式で実施し、また情報セキュリティ(春学期)、情報モラル(秋学期)は基本的知識を学び、小テストで確認する。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識を復習すること。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待1回目） リスク：情報モラル（情報社会）
2	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待2回目） リスク：情報モラル（著作権1回目）
3	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待3回目） リスク：情報モラル（著作権2回目）
4	小テスト	コンプライアンス：お客様（外回り・接待4回目） リスク：情報モラル（個人情報1回目）
5	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売1回目） リスク：情報モラル（個人情報2回目）
6	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売2回目） リスク：情報モラル（ネチケット1回目）
7	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売3回目） リスク：情報モラル（ネチケット2回目）
8	小テスト	コンプライアンス：お客様（顧客・販売4回目） リスク：情報モラル（ネットコミュニケーション）
9	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート1回目） リスク：情報モラル（事例研究）
10	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート2回目） リスク：情報モラル（事例研究）
11	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート3回目） リスク：情報モラル（復習）
12	小テスト	コンプライアンス：その他（プライベート3回目） リスク：情報モラル（復習）
13	小テスト	コンプライアンス：予備 リスク：予備
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	コンプライアンスの基本 角川出版 / 情報倫理ハンドブック noa出版
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	デジタル・マーケティング I		（ THB215 ）
講義名（コード）	デジタル・マーケティング I B		（ THB215B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	走内 慎一	時間数	30時間
成績評価教員	走内 慎一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	デジタル・マーケティング I		(THB215)
講義名（コード）	デジタル・マーケティング I B		(THB215B)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	走内 慎一	時間数	30時間
成績評価教員	走内 慎一	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	会計・財務論 II		(THB218)
講義名（コード）	会計・財務論 II A		(THB218A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	鈴木 歩	時間数	30時間
成績評価教員	鈴木 歩	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簿記3級の合格を目指し、進度により2級範囲にも触れる
全体の内容と概要	テキストを利用したインプット講義、過去問等を利用したアウトプット講義を行う
授業時間外の学修	状況により課題を課す
履修上の注意事項等	電卓の準備を推奨

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	導入講義
2	過去問に挑戦1	演習講義1
3	過去問に挑戦2	演習講義2
4	過去問に挑戦3	演習講義3
5	過去問に挑戦4	演習講義4
6	過去問に挑戦5	演習講義5
7	過去問に挑戦6	演習講義6
8	過去問に挑戦7	演習講義7
9	過去問に挑戦8	演習講義8
10	連結概念の理解1	上級講義1
11	連結概念の理解2	上級講義2
12	工業簿記の理解1	上級講義3
13	工業簿記の理解2	上級講義4
14	後期期末試験	—
15	フィードバック	—

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト・トレーニング 日商簿記3級
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	会計・財務論Ⅱ		（THB218）
講義名（コード）	会計・財務論ⅡB		（THB218B）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	鈴木 歩	時間数	30時間
成績評価教員	鈴木 歩	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	簿記3級の基礎を固め、試験問題を解けるようになる
全体の内容と概要	テキストを利用したインプット講義、過去問等を利用したアウトプット講義を行う
授業時間外の学修	状況により課題を課す
履修上の注意事項等	電卓の準備を推奨

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	導入講義
2	問題集の実践1	演習講義1
3	問題集の実践2	演習講義2
4	問題集の実践3	演習講義3
5	問題集の実践4	演習講義4
6	過去問に挑戦1	演習講義5
7	過去問に挑戦2	演習講義6
8	過去問に挑戦3	演習講義7
9	過去問に挑戦4	演習講義8
10	過去問に挑戦5	演習講義9
11	過去問に挑戦6	演習講義10
12	過去問に挑戦7	演習講義11
13	過去問に挑戦8	演習講義12
14	期末試験	—
15	フィードバック	—

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト・トレーニング 日商簿記3級
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	サステナビリティとコミュニティ II		（ THB220 ）
講義名（コード）	サステナビリティとコミュニティ II		（ THB220 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	持続可能な地域づくりにおける文化・コミュニティの役割を理解し、実際の事例を通じて、持続可能な社会のためのコミュニティ形成について考える。
全体の内容と概要	文化・コミュニティと持続可能性の関係や異文化環境での協働作業を通じて、実践的なコミュニティ形成のスキルについて学ぶ。文化財や世界遺産などの具体的な事例を分析し、問題点や解決策を議論する。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるための学習が必須である。
履修上の注意事項等	目的意識をもって前向きにテーマに取り組み、自身の考えを他者に伝えたり聞きグループの成果を達成するために積極的に授業に参加する姿勢が必要である。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	環境保護と地域社会の連携を学ぶ	環境保護と地域の取り組みについて学び、自国の事例を分析する。 グループワーク：自国の事例分析
2	企業のCSRと持続可能性①	企業の社会的責任とエシカルビジネスについて学ぶ。 グループワーク：企業のCSR戦略の分析
3	企業のCSRと持続可能性②	企業の社会的責任とエシカルビジネスについて学ぶ。 グループワーク：企業のCSR戦略の分析と提案の発表
4	ミュージアムと地域文化の関係①	ミュージアムと地域文化の具体的な事例を学ぶ。 グループワーク：ミュージアムの具体的な事例をリサーチしその役割について考える。
5	ミュージアムと地域文化の関係②	ミュージアムと地域文化の具体的な事例を学ぶ。 グループワーク：ミュージアムの社会的役割と持続可能な観光について考える。
6	伝統的建築物の保存と地域活性化①	伝統的建築物の保存活動と観光・環境保全のバランスについて学ぶ。 グループワーク：伝統的建築物の具体的な事例をリサーチする。
7	伝統的建築物の保存と地域活性化②	伝統的建築物の保存活動と観光・環境保全のバランスについて学ぶ。 グループワーク：伝統的建築物の具体的な事例をリサーチし文化財の保護と活用について考える。
8	サステナブルな庭園デザイン	日本庭園の基礎について学び、持続可能な管理について知る。 グループワーク：日本庭園の具体的な事例をリサーチし持続可能な景観デザインについて考える。
9	伝統建築を活かした都市デザイン	景観保護と観光戦略について考える。 ワークショップ：地域資源を活かした街づくり
10	災害と地域文化 震災復興と地域コミュニティ①	日本の災害と震災後の地域再生とコミュニティ形成の取り組みについて学ぶ。 グループワーク：日本の災害についてリサーチする。
11	災害と地域文化 震災復興と地域コミュニティ②	日本の災害と震災後の地域再生とコミュニティ形成の取り組みについて学ぶ。 グループワーク：復興リーダーの役割と地域の協力について学ぶ。
12	持続可能な都市開発とスマートシティ①	スマートシティの事例と技術について学ぶ。 グループワーク：スマートシティの事例と技術についてリサーチする。
13	持続可能な都市開発とスマートシティ②	スマートシティの事例と技術について学ぶ。 グループワーク：スマートシティの未来の都市デザインを提案する。
14	最終プレゼンテーション	学習成果の発表 今後の実践に向けたディスカッション
15	追試・フィードバック	持続可能な社会に向けた個人のアクションプラン作成

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし
参考文献・資料等	適宜配布する
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本文化資源とまちづくり II		(THB222)
講義名（コード）	日本文化資源とまちづくり II		(THB222)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	辻野 啓一	時間数	30時間
成績評価教員	辻野 啓一	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	MICE（会議、報償、国際会議、イベント）の各項目が持つ、「市場を大きく変容させ、拡大させる力」がいかに大きいのか？そして、それ故、これからの日本にいかに関心かを理解できるようになる。
全体の内容と概要	今後、日本の主要産業となる観光業の推進事項として観光庁が強力に推し進めようとしているMICE（会議、報償、国際会議、イベント）について学ぶ。
授業時間外の学修	観光推進の成功地の川越を訪ね、研修する。特にMICEのE=イベントの成功例の川越まつりについて学ぶ。
履修上の注意事項等	11月9日（日）、11月16日（日） 2班に分けて、川越へ研修に行く。この研修に参加することは 単位取得の条件 になる。アルバイト先等調整を行っておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	オリエンテーション
2	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	M=会議の理解
3	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	<I=報償> ① 報償が企業の売り上げにいかに関与的で、社員のモチベーション向上もつなげるかを学ぶ
4	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	<I=報償> ② 報償が企業の売り上げにいかに関与的で、社員のモチベーション向上もつなげるかを学ぶ
5	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	<C=コンベンション> 国際会議の重要性を俯瞰する。
6	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	<C=コンベンション> 成功している国、地域の事例を学ぶ
7	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	<E=イベント> 観光地として成功している川越を訪問して研究する。特にイベント（川越まつり）について学ぶ。11月9日（日）川越研修①班
8	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	11月16日（日）川越研修②班
9	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	研修発表の資料づくり
10	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	研究発表①
11	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	研究発表②
12	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	講義： <E=イベント> 地域を元気にするイベント
13	MICEの特徴を理解し、市場を容れさせる力がいかに大きいかを理解できるようにする	講義： <E=イベント> 商店街を元気にするイベント
14		後期期末試験
15		フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	私が作成した講義資料を使用
参考文献・資料等	「マイス・ビジネス入門」浅井伸介（プラザ出版）
備考	<u>旅行業界で38年間の経験を持ち、うち6年間はハワイに駐在。その後、日本エコツーリズム協会で理事・事務局長を5年間務める。観光実務に精通し、特にハワイのDMO成功事例に詳しい。現地でのイベント運営やリピーター創出の観点から、持続可能な観光の実践と魅力創出をリードしてきた。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー IV		(THB224)
講義名（コード）	ビジネスマナー IVC		(THB224C)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	就職を意識した会話力向上のために特に敬語運用力を高める。 既習の文法や語彙について、日英を通じて運用力を高める。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙の習得 「サービス敬語」、研修やイン	20日で合格N1 文字・語彙 第13日 「敬語トレーニング」2章10課
2	語彙の習得 相談をされた時の返答の仕方を	20日で合格N1 文字・語彙 第14日 「敬語トレーニング」2章11課
3	語彙の習得 自分の意見を言う場合の話し方	20日で合格N1 文字・語彙 第15日 「敬語トレーニング」2章12課
4	語彙の習得 面接での話し方を身につける	20日で合格N1 文字・語彙 第16日 「敬語トレーニング」2章13課
5	語彙の習得 電話での話し方を身につける	20日で合格N1 文字・語彙 第17日 「敬語トレーニング」2章14課
6	語彙の習得 他者への質問の仕方を身につけ	20日で合格N1 文字・語彙 第18日 「敬語トレーニング」2章15課
7	語彙の習得 上司へ失礼のないように報告す	20日で合格N1 文字・語彙 第19日 「敬語トレーニング」2章16課
8	語彙の習得 司会を行う際に必要な敬語表現	20日で合格N1 文字・語彙 第20日 「敬語トレーニング」2章17課
9	語彙の習得 メールの敬語表現を身につける	語彙復習 「敬語トレーニング」2章18課
10	語彙の習得 人間関係に合わせて適切な表現	JLPT模試 「敬語トレーニング」3章
11	語彙の習得 人間関係に合わせて適切な表現	語彙復習 「敬語トレーニング」3章
12	後期の内容の理解と定着	後期の復習
13	後期の内容の理解と定着	後期の総まとめ
14	期末試験	後期期末試験
15	追試・フィードバック	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	新・にほんご敬語トレーニング 20日で合格N1 語彙
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー IV		(THB224)
講義名（コード）	ビジネスマナー IVD		(THB224D)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2の漢字と語彙を学ぶ。漢字については1年生で習ったことを復習しながら、新出漢字や語彙を増やす。就活やビジネスで使用する語彙を理解し、頻出漢字を書けるようになる。
授業時間外の学修	予習：漢字は事前に3回ずつ書いて意味を確認しておくこと。 復習：授業で学んだ漢字の読みと語彙を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 3-3 パワードリル語彙 12回
2	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 3-4 パワードリル語彙 13回
3	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 3-5 パワードリル語彙 14回
4	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 3-6 パワードリル語彙 15回 集中トレーニング
5	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト スピードマスター漢字N2 UNIT 4-1 パワードリル語彙 16回
6	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 4-2 パワードリル語彙 17回
7	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 4-3 パワードリル語彙 18回
8	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 4-4 パワードリル語彙 19回
9	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 4-5
10	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト スピードマスター漢字N2 UNIT 5-1 パワードリル語彙 20回 集中トレーニング
11	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 5-2 パワードリル語彙 21回
12	漢字の習得 語彙の習得	スピードマスター漢字N2 UNIT 5-3 パワードリル語彙 22回
13	後期の内容の理解と定着	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	スピードマスター漢字N2 パワードリル語彙 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー IV		(THB224)
講義名（コード）	ビジネスマナー IVE		(THB224E)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	就職を意識した会話力向上のために特に敬語運用力を高める。 既習の文法や語彙について、日英を通じて運用力を高める。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第4週 4日目5日目 パワードリル語彙 12回
2	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第4週 6日目第5週 1日目 パワードリル語彙 13回
3	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト 総まとめ漢字N2 第5週 2日目 パワードリル語彙 14回
4	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第5週 3日目4日目 パワードリル語彙 15回 集中トレーニング
5	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第5週 5日目6日目 パワードリル語彙 16回
6	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト 総まとめ漢字N2 第6週 1日目 パワードリル語彙 17回
7	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第6週 2日目3日目 パワードリル語彙 18回
8	模擬試験 漢字の習得	JLPT模試 文字語彙 総まとめ漢字N2 第6週4日目5日目
9	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第6週 6日目第7週 1日目 パワードリル語彙 19回
10	漢字の習得 語彙の習得	漢字小テスト 総まとめ漢字N2 第7週 2日目 パワードリル語彙 20回 集中トレーニング
11	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第7週 3日目4日目 パワードリル語彙 21回
12	漢字の習得 語彙の習得	総まとめ漢字N2 第7週 5日目6日目 パワードリル語彙 22回
13	後期の内容の理解と定着	漢字小テスト 後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ漢字N2 パワードリル語彙 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅣ		(THB226)
講義名（コード）	キャリアデザインⅣ		(THB226)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	榎本	時間数	30時間
成績評価教員	榎本	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	学内に招致する企業・学校を調べ、主体的に就職活動や進路先を主体的に調査・発表する。
全体的内容と概要	将来のキャリアプランを主体的に考え、卒業後の進路を決定するために行動する力を身につける。
授業時間外の学修	グループワーク、発表準備、授業課題
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	TBL 2 年間の総括	卒業式でのありたい姿を明確にする。マンドラチャートを使い卒業式までの時間の使い方、目標を明確にする。
2	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
3	進学のための準備①	進学希望者のための学校講演会。学校関係者より講演していただき学生は主体的に質問する。
4	就職のための準備①	就職希望者のための企業講演会。採用担当者より講演していただき学生は主体的に質問する。
5	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
6	進路希望ごとに課題を明確にし、ピアサポートをおこなう。	進路希望ごとにグループワーク。進路決定した学生は未決定の学生へ支援・助言する。
7	進学のための準備②	進学希望者のための学校講演会。学校関係者より講演していただき学生は主体的に質問する。
8	就職のための準備②	就職希望者のための企業講演会。採用担当者より講演していただき学生は主体的に質問する。
9	下級生へ進路報告プレゼンテーションを準備する。	「進学」「就職」「起業」「海外留学」に分かれて下級生へのプレゼンテーションの準備を行う。パワーポイント資料にまとめる。
10	下級生へ進路報告プレゼンテーションを準備する。	「進学」「就職」「起業」「海外留学」に分かれて下級生へのプレゼンテーションの準備を行う。パワーポイント資料にまとめる。
11	発表	進路報告プレゼンテーションの発表をもって期末評価とする。
12	2 年間総括	各自「現在」「過去」「未来」のキャリアについて 1 分間スピーチを行う。
13	2 年間総括	各自「現在」「過去」「未来」のキャリアについて 1 分間スピーチを行う。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 IV		（ THB230 ）
講義名（コード）	通訳演習 IVC		（ THB230C ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	竹内 通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、ビジネス場面での専門的な話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	N2の文字語彙と読解を中心に学ぶ。たくさんの文章に触れ、ビジネスに必要な言葉を身につけ、ビジネス文章を素早く理解する力を身につける。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	小論文・評論文の読解力をつける	ドリル&ドリル内容理解中文3~4番 20日で合格N2
2	長文の読解力をつける	ドリル&ドリル内容理解長文2番 20日で合格N2
3	異なる意見を読み解く力をつける	ドリル&ドリル統合理解3番 情報検索3番 20日で合格N2
4	筆者の意見を理解する力をつける	ドリル&ドリル主張理解3番 20日で合格N2
5	長文の読解力をつける	ドリル&ドリル内容理解長文3番 20日で合格N2
6	筆者の意見を理解する力をつける	ドリル&ドリル主張理解4番 20日で合格N2
7	長文の読解力をつける	ドリル&ドリル内容理解長文4番 20日で合格N2
8	長文の読解力をつける	長文読解 20日で合格N2
9	JLPT N1レベルの読解力をつける	JLPT模試 N2 解説
10	JLPT N1レベルの読解力をつける	JLPT模試 N2 解説
11	日本語の表現力をつける	記述演習
12	日本語の表現力をつける	記述演習
13	日本語の表現力をつける	記述演習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2・ドリル&ドリルN1 20日で合格N2 語彙
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 IV		（ THB230 ）
講義名（コード）	通訳演習 IVD		（ THB230D ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	竹内 通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、ビジネス場面での専門的な話題でやりとりができるようになる。
全体の内容と概要	N2の文字語彙と読解を中心に学ぶ。たくさんの文章に触れ、ビジネスに必要な言葉を身につけ、ビジネス文章を素早く理解する力をみにつける。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 14日目 20日で合格（語彙）
2	語彙・図での内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 14日目 20日で合格（語彙）
3	語彙・比較問内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 15日目 20日で合格（語彙）
4	語彙・グラフ内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 15日目 20日で合格（語彙）
5	語彙・比較問内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 16日目 20日で合格（語彙）
6	図・表・比較問内容理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 16日目 20日で合格（語彙）
7	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ⑨ 20日で合格（語彙）
8	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 ウォーミングアップ⑩ 20日で合格（語彙）
9	JLPT模試	必ずできる！JLPT「読解」N2 復習 20日で合格（語彙）
10	JLPT模試	JLPT模試
11	文法・接続詞・副詞理解	JLPT模試
12	文法・接続詞・表理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 17日目 20日で合格（語彙）
13	文法・図・接続詞副詞理解	必ずできる！JLPT「読解」N2 17日目 20日で合格（語彙）
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！JLPT「読解」N2, 20日で合格 語彙 N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	通訳演習 IV		（ THB230 ）
講義名（コード）	通訳演習 IVE		（ THB230E ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	HB2	単位数	2単位
授業担当者	竹内 通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、ビジネス場面での専門的な話題でやりとりができるようになる。
全体的内容と概要	N2の文字語彙と読解を中心に学ぶ。たくさんの文章に触れ、ビジネスに必要な言葉を身につけ、ビジネス文章を素早く理解する力をみにつける。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	案内文・手紙・随筆・小論文を すばやく読み解く力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 18日目 20日で合格N2
2	案内文・手紙・随筆・小論文を すばやく読み解く力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 18日目 20日で合格N2
3		演習問題
4	案内文・手紙・随筆・小論文を すばやく読み解く力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 19日目 20日で合格N2
5	小論文・表論文を読み解く力を つける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 19日目 20日で合格N2
6	長文を読み解く力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 20日目 20日で合格N2
7	異なる意見を理解し、立場の違いを 読み解く力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 20日目 20日で合格N2
8	長文を読み解き、筆者の意見を 理解する力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 21日目 20日で合格N2
9	長文を読み解き、筆者の意見を 理解する力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 21日目 20日で合格N2
10	JLPT N1レベルの読解力をつける	JLPT模試 N2 読解
11	JLPT N1レベルの読解力をつける	JLPT模試 N2 読解
12	案内文から必要な情報を読み取る 力をつける	必ずできる！ JLPT「読解」N2 22日目 20日で合格N2
13	前期の内容を理解し、確実に身につける	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2 20日で合格 語彙 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。